



学校だより 青い鳥

平成29年度9月号
さいたま市立上落合小学校
平成29年8月29日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



本当の、本物の

校長 藤澤 太郎

この暑さに「汗がひかない」毎日で、犬はくたくたになって舌がだらん、エアコンの風を独り占めしようと両者ががんばります。また、全体に雨がち曇りがちで、なんだか調子が出ませんねえ。

夏休みはいかがお過ごしでしたでしょうか？9月に入ってしばらく経つと、だいたい涼風が立って湿度が下がり、快適な日々になると推測されます。2学期のスタート、お互いを尊重し大切に過ごすことができればと考えております。今学期もよろしくお願ひいたします。

さて、今月は「本当の本物」について考えてみます。最近インターネットなどで、手軽に様々な体験（疑似）ができる環境が実現されつつあります。それで満足できない部分は、やはり、実際に実物に触れてみることです。例えば、社会科見学や遠足では、実際に自分の目で見て、触れてみてその感覚を味わうことで、その後子どもたちは一歩進んだ考え方ができるようになるようです。子どもには、本当の本物の経験・体験をしてほしいと思うところです。

昭和の終わりころには、本物志向が盛り上がりました。ブランドや作法や髪形や仕草など、衣食住は勿論、およそ目に付くところすべてにこだわったという時代でした。今にして思うと、物や行為の価値がとても不確かであったと思い出します。例えば腕時計では、メイドイン〇〇でムーブメントは〇〇製でといったこだわりをもった人はご立派で、大概メーカー名とお値段での判断となっていたのでは？と思います。この後しばらくして日本はバブリーな時代に突入する訳ですが、僕はその時代は学生で、本物志向についてあまりピンときませんでした。自慢にもなりません、その時もっていたものは、野菜や水の味、宵のうちの虫の鳴き声や朝日の煌き、そして冬の凍えるような寒さなどについて、自信をもって「これは本物！」と言える感覚です。

時代は変わって、現代でも本物の体験や本物志向はあるのだと思います。本当の本物の経験こそが価値のあることだとする、一方、これからは、VRのテクノロジーが伸びてくるのだと言う学者もいます。以前、シンギュラリティの話をしました。VRのテクノロジーも一連の時代変革のストーリーに入っています。具体的には、海外旅行は現地足を運ばなくても、ネットやVRにより無料で行けるようになるのか？そうなってくるとそもそも移動のための飛行機に乗る必要がないということで、「どこでもドア」の感覚で旅行が楽しめるということです。すぐに思いつく疑問は、旅行に行った先の風の感覚や、料理の香りやホテルの家具の質感などなど、これは体験できないだろうということですが、進化したVRはこのことを軽々とクリアするのだそうです。

何が本物か？ということの結論はなかなか得られませんが、時代とともに価値観は変化していきます。価値観とは、その時代で、これが本当の本物とする基準のことでもあります。実際、正月の丹波黒の煮豆も子どもに大人気の袋菓子も、時代とともに「これが本当の味だ！」として、実はその裏で作り手は時代に合うように味を変化させているんですね。また、最近では、昔本物だったものが今は本物ではなくなるということ・ものがたくさん見られ、とても残念な気分になることがあります。

しかしながら、その時代のうちで本当の本物については、是非とも子どもたちに経験してほしいと思っています。その経験がなければ経験や物の価値が定まらないと思われるからです。「昔はこうだったのに！」とは、世の大人は年を重ねる毎に思うところですが、これからの時代をつくっていくのは子どもたちですから、と、すこし大げさに考えた次第です。

9月は、まず学校生活にもう一回慣れることから始めて、そして1学期に学習したことや活動して得たものを確認して、そのことを前進・発展させていくことが大切と考えます。個人やクラスのペースを大切にして、2学期全体の見通しが持てると良いですね。今学期もがんばっていきましょう。

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく